

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	22人	算数	22人	理科	22人
------	----	-----	----	-----	----	-----

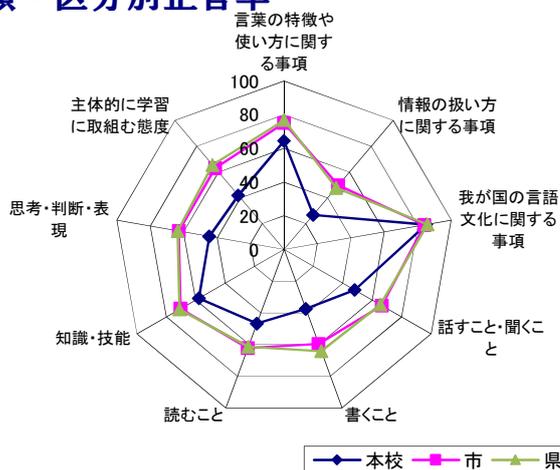
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	64.5	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	26.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	48.0	66.5	65.5
	書くこと	37.5	59.6	64.2
	読むこと	46.7	62.2	61.5
観点	知識・技能	57.9	70.2	71.1
	思考・判断・表現	44.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	42.0	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

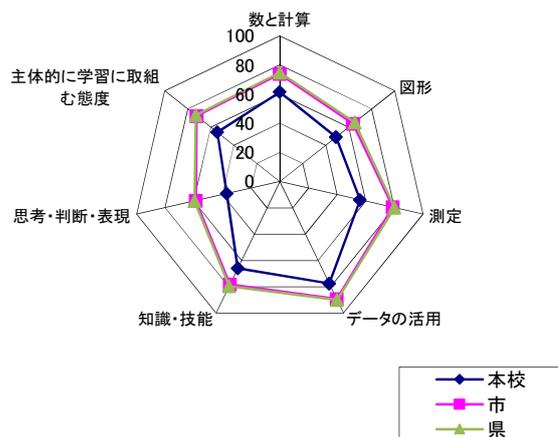
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字の読みに関する正答率は県平均と同等であるが漢字の書きに関しては課題がみられた。 ●主語と述語の関係や、様子や行動を表す言葉の語彙力を問う問題において課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字の確実な定着を図るため、朝の学習や宿題において前年度までに学習した内容の復習を取り入れた。 「宮っ子学習ステップアップシート」やAIDリルを朝の学習や授業の始めに学習する時間を設け、定着を図る。 ・主語や述語、様子や行動を表す語句の使い方など、言葉に関する学習においては、普段の学習の中で取り上げたり、AIDリルなどを用いて様々な問題にふれる機会を設けるなどして定着を図る。
情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●国語辞典の使い方について県の平均を20ポイント下回った。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を使うことは必要な情報を収集したり、語彙を豊かにするためには必要な知識及び技能であることから、普段から辞書を教室に常備するとともに、わからない言葉は進んで調べる機会を国語だけでなく、他教科においても設けるようにする。 ・説明文では大事な言葉や文に線を引くなどし、ポイントとなる言葉を可視化できるようにするとともに、要点をおさえながら読み進めることで話の中心を捉えることができるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字のへんやつくりについては県の平均とほぼ同等であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の練習などの際にへんやつくりを意識しながら学習することで定着を図っていく。 ・一人一台端末のAIDリルを活用し、繰り返し学習に取り組む機会を設ける。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●話し手が伝えたいことの中心を捉える力に課題がみられる。 ●相手に伝わるように自分の考えを理由をあげながら書く設問では、理由をつけて自分の考えを表現することに課題がある。 ●調べ方について話し合う場面の問題において、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる力に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動においても、話し合い活動の場面を意図的に取り入れ、一人一人が進んで話し合いに参加できるよう努める。 ・話の内容を聞き取ったり、内容を理解したりする力をつけるため、児童同士の話し合いの場面を意図的に取り入れ、自分の意見を積極的に述べたりする活動を取り入れていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●指定された内容や字数の中で自分の考えをまとめ文章に変換して書くことに課題がみられる。 ●段落の構成を意識して文章を書くことに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や他教科においても自分の考えを文章にして表現する機会を設ける。 ・文字数や段落の構成などの条件を指定し、その条件に合わせて文章を書く活動を取り入れる。 ・物語や説明文の学習など場面の転換や、段落の切り替わりを意識して読み進め、文章の構成について意識して学習に取り組めるようにすることで、「書く」活動に生かせるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●場面の様子や段落の役割など細かい点に注意しながら文章の内容を的確に読み取ることに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語については登場人物の気持ちの変化や情景、場面の様子などを、説明文については段落相互の関係や筆者の考えなどをもとに要約するなど場面を意図的に設定することで学習の定着を図る。 ・朝の活動等で読書をする時間を確保し、情景を思い浮かべながら読み進めたり、筆者の考えを意識したりしながら読み進められるよう支援していく。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.5	73.8	74.8
	図形	49.0	63.7	65.3
	測定	56.0	78.9	80.1
	データの活用	77.5	89.3	90.0
観点	知識・技能	66.0	78.3	79.5
	思考・判断・表現	37.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	54.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

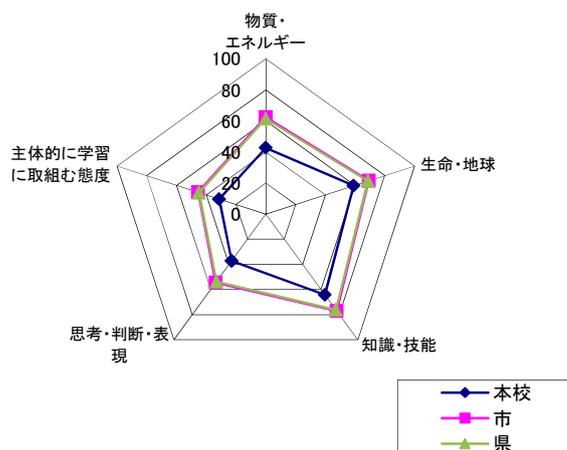
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○繰り上がりが連続するたし算では、正答率が9割を超えていて県平均を上回った。</p> <p>○同分母の真分数のたし算の計算では、全員が正答を導き出すことができた。分数の計算について、理解しているといえる。</p> <p>●文章問題において適切な加減乗除を用いて立式する力に課題がみられた。</p> <p>●説明文に沿って暗算の仕方を順序良く説明しながら正答を導き出す問題において課題がみられた。</p>	<p>・朝の学習や宿題において、意図的にかけ算の筆算やわり算の筆算などを復習する機会を設定し、定着を図っていく。</p> <p>・文章問題については、普段の授業から絵や図、数直線などに関係を表しながら立式させていくことで数の関係を確認させるとともに、加減乗除のどの計算方法で解決することが正しいのかを理解させていく。</p>
図形	<p>●箱の中に並んで着るボール1つ分の半径を導き出す問題など立体に対する理解に課題がみられた。</p> <p>●二等辺三角形の作図について、コンパスの扱い方や、二等辺三角形の特徴として2つの辺の長さが同じ長さになることに課題がみられた。</p>	<p>・立体図形については半具体物や具体物の操作と、一人一台端末を用いて様々な角度から見た立体の様子とを組み合わせながら実際に見えない空間の部分の認識を高めさせることでイメージの具現化を図る機会を取り入れていく。</p> <p>・作図の仕方については、コンパスを扱う意味や二等辺三角形の辺の特徴など様々な条件に合わせて作図の仕方を考えていけるよう指導していく。</p>
測定	<p>●時計の読み取りについては、指定された時間と時間の間の時間を問う問題について課題がみられる。</p> <p>●地図から道のりを求める問題において課題がみられた。</p>	<p>・時刻と時刻の間の時間がどのくらいあるのかについては日常生活の中において適宜確認しながら定着を図る。</p> <p>・道のりのことばの意味を復習するとともに、長さの単位(m, kmなど)を朝の学習などを活用して復習し、定着を図る。</p>
データの活用	<p>●棒グラフの問題においては、1メモリが表す数や棒グラフの読み取りにおいて課題がみられる。</p>	<p>・集めたデータを棒グラフに表すには縦軸や横軸をどのようにするとよいか考えながら表を作成することができるように、学期のまとめや朝の学習の時間などで復習を行い定着を図る。また、データの読み方についても同様に行い定着を図っていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	42.7	62.5	61.5
	生命・地球	59.0	69.2	68.6
観点	知識・技能	64.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	37.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	31.3	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●「電気の通り道」の設問における回路の理解や、正しく電気が通るための回路を選ぶ問題において課題がみられた。 ●光を重ねた時の温度変化やペットボトルに集まった光の屈折についての理解に課題がみられた。 ●音は振動により伝わることや振動を遮断すると伝わらないことなどを問う問題において課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4年の「電気のはたらき」の学習の中や復習などを通して回路のしくみや正しく回路が繋がれば電気が通ることを確認したり、復習したりして定着を図っていく。 ○光のせいしつや音のせいしつについては、朝の学習等を利用して復習することにより定着を図っていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○植物の体のつくりについての設問については県の平均を上回り、理解できている。 ●昆虫の完全変態と不完全変態の昆虫の理解に課題がみられた。 ●日なたと日かげでの温度の変化について課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昆虫の育ち方については、モンシロチョウについて授業で取り上げていて正しく理解することができているが、その他の昆虫については完全変態が不完全変態について見分けることができていないため、様々な昆虫を飼育する機会を取り入れるなど生き物に触れる機会を取り入れるようにしていく。 ○日なたと日かげで温度の変化に違いがあることについて実際の経験をもとにしたり、再度確認したりしながら理解を深めていくような機会を取り入れていく。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○宿題については、「学校の宿題の量はちょうどいい」、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答が県の平均を上回っている。

○学校での様子については、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の項目について県の肯定的回答を大きく上回っている。また、「授業中集中して受けている」、「クラスは発言しやすい雰囲気である」、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」、「先生は学習のことについてほめてくれる」、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」についても県の肯定的回答を大きく上回っていて、学習については思考力・判断力・表現力をクラスの中で共有し合いながら学習に向き合う雰囲気作りも担任の先生を中心に進めていることがうかがえる。

○「学校のきまりを守っている」、「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」、「人と話すことは楽しい」の肯定的回答が県の平均を上回っていて学校生活が充実したものになっていることが分かった。

●宿題については、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」については県の平均を下回った。また「学ぶ意よく」の「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」についても県の肯定的回答を下回っている。このことは、上記の良好な状況が見られるものを比較して考えてみると、ひとりで学習することには不安が大きく、先生や保護者など分からないところについて教えてもらえる機会を増やしていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」については県の肯定的回答を下回っていて自己肯定感が低い結果となった。今後な学校行事や学級活動などにおいて自分に自信がもてるような機会を増やしていきたい。

●家での生活については、「毎日、同じくらいの時こくにねている」、「早ね、早起きを心がけている」について県の肯定的回答を下回っていることから、規則正しい生活を送ることの大切さを児童だけでなく、保護者にも広く啓発していくことが大切である。

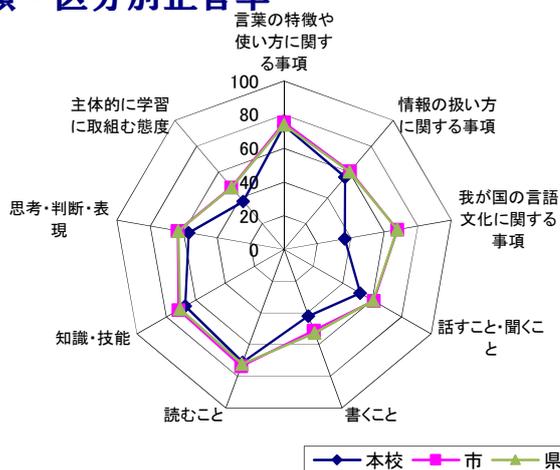
●自分自身のことについて、「自分は勉強がよくできる方だと思う」、「自分にはよいところがあると思う」、「自分の行動や発言に自信をもって」について県の肯定的回答を下回っていることから、学校生活や家庭での生活の中でできたことは褒めて伸ばしたり自信を付けさせたりしていくよう学校と家庭の連携や協力が必要になると考える。

●「しょう来のゆめや目標をもっている」、「家の人としょう来のことについて話すことがある」について県の肯定的回答を下回っていることから、総合的な学習の時間に将来について調べ学習を行うことを通して夢に向かうための目標をもたせていきたい。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.6	75.4	74.1
	情報の扱いに関する事項	56.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	36.4	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	51.8	61.0	60.7
	書くこと	42.0	51.2	52.8
	読むこと	71.2	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.2	71.7	70.6
	思考・判断・表現	57.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	37.3	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

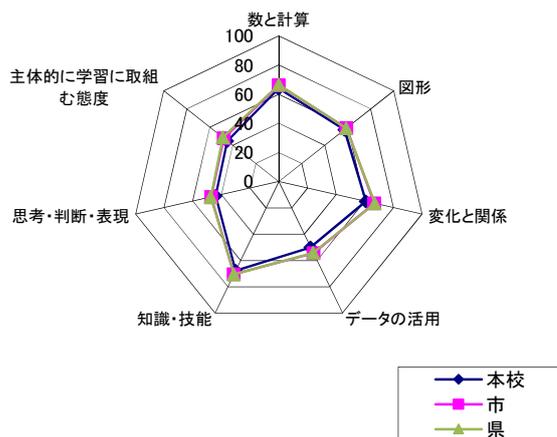
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○言葉の学習における連用修飾語についての正答率は、県平均を20ポイント以上上回っている。	・朝の学習や家庭学習を利用しながら復習する機会を設け、さらなる定着を図る。 ・文章を読み書きする機会を増やすことで、基本的な内容の理解の定着を図るとともに、普段の生活の中で自分の思いや考えを表現する時間を設定することで、活用する力を育てていく。
情報の扱いに関する事項	○漢字辞典の使い方についての正答率は県の平均とほぼ同等である。 ●説明文において話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、理由や事例などをあげたりしながら話し合う力に課題がある。	・説明文では大事な言葉や文に線を引くなど、ポイントとなる言葉を可視化できるようにするとともに、要点をおさえながら読み進めることで話の中心を捉えることができるようにしていく。 ・捉えた情報を絵や図、矢印などで表現する活動を通して、内容の構成をイメージしながら理解を深めることができるよう指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざの意味を知り、文章の中で正しく活用することに課題がみられる。	・普段の生活の中で、ことわざを扱う場面を取り入れることでことわざに関心をもたせるとともに、様々な場面で活用する機会を設けたり、朝の学習などにおいてもことわざに触れさせたりすることで定着を図る。
話すこと・聞くこと	●話の内容を聞き取り、話の中心を捉えたり、登場人物の意見の相違を理解したりしながら考えをまとめる力に課題がみられる。 ●アンケートの結果をもとに話す活動においては、話し合いの意見を理解しながら、理由や事例を見つけて表現することに課題がある。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動においても、話し合い活動の場を意図的に取り入れ、一人一人が進んで話し合いに参加できるよう努める。 ・話の内容を聞き取ったり、内容を理解したりする力をつけるため、児童同士の話し合いの場を意図的に取り入れたり、自分の意見を積極的に述べたりする活動を取り入れていく。
書くこと	●段落の構成を意識して文章を書くことに課題がみられる。 ●取材メモから話の内容や中心を明確にして文章を書くことに課題がみられる。	・国語だけでなく他教科においても自分の考えを文章にして表現する機会を増やし、定着を図っていく。 ・物語や説明文の学習など場面の転換や、段落の切り替わりを意識して読み進め、文章の構成を意識して学習に取り組めるようにすることで、「書く」活動に生かせるようにする。
読むこと	○説明文の内容を読み取り、段落相互の関係を捉えて読み進めることができている。 ●物語において登場人物の気持ちを場面ごとの状況と合わせながら捉えることに課題がみられる。	・物語については登場人物の気持ちの変化や情景、場面の变化などをイメージしながら読み進めることができるよう指導していく。 ・説明文については段落相互の関係や筆者の考えなどをもとに要約するなど、表現する場を意図的に設定することで学習の定着を図る。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.9	66.1	66.4
	図形	57.1	58.9	58.8
	変化と関係	60.9	66.6	67.0
	データの活用	50.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	67.8	70.4	70.6
	思考・判断・表現	44.1	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	44.8	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

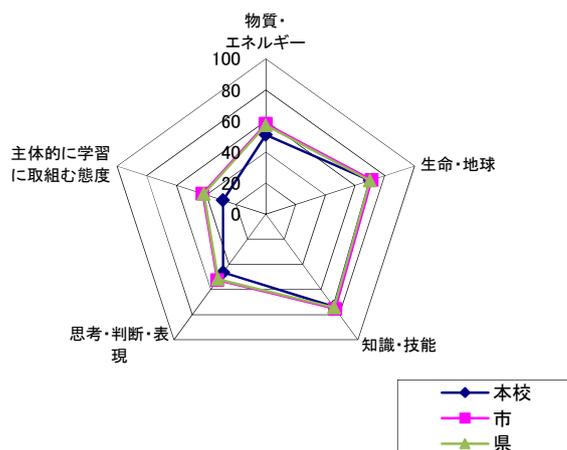
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○億と兆・概数の表し方の問題については正答率が県の平均よりも高く、概数の表し方や意味を理解できている。</p> <p>●帯分数－真分数の計算や小数のわり算については課題がみられる。</p> <p>●計算のきまりとしての分配法則についての理解に課題がみられる。</p>	<p>・学習の系統性を意識し、新しい単元の学習の前に、その学習につながる既習の学習の振り返りをする時間をとることで定着を図る。</p> <p>・分数の意味を確認するとともに帯分数や仮分数、真分数の意味や計算の仕方などを再度確認するなどして、定着を図っていく。</p> <p>・計算のきまりや分配法則の意味を再確認するとともに復習の時間を設けることで定着を図っていく。</p>
図形	<p>○教室のおよその大きさを面積で表す問題において、立式し正答を求める設問の正答率は、県平均より高い。</p> <p>●平行四辺形の作図について、コンパスとものさしで作図することに課題がみられた。</p>	<p>・立体図形については半具体物や具体物の操作と、一人一台端末を用いて様々な角度から見た立体の様子とを組み合わせながら実際に見えない空間の部分の認識を高めさせることでイメージの具現化を図る機会を取り入れていく。</p> <p>・作図の仕方については、コンパスを扱う意味や向かい合う辺の長さと同じ長さの辺の特徴などに合わせて作図の仕方を考えていけるよう指導していく。</p>
変化と関係	<p>○割合の問題において、図を使って基準量を求めるための除法の立式の問題では、県の平均を上回った。</p> <p>●変わり方調べについての問題では、県の正答率より低くなっている。伴って変わる2つの数量の関係を記号を使って式に表すことに課題がみられた。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量については、朝の学習や復習の時間を通して2つの数量の変化の中からきまった数や規則性を見つける活動を取り入れ、定着を図る。</p> <p>・2つの量を比べる時には、なぜその答えになるのかという根拠を明確にして説明する活動を取り入れ、言語活動を進めていく。</p>
データの活用	<p>○二次元表の読み方の問題では、県の平均より高くなっていて、よく理解できている。</p> <p>●折れ線グラフと表の問題については、県の平均より低くなっており、折れ線グラフから変わり方を読み取ることや問われている情報を読み取ることへの課題がみられる。</p>	<p>・他教科(特に理科や社会、総合的な学習の時間)の学習の中で活用する折れ線グラフに着目し、活用する度にグラフから読み取れる情報を確認するなど学習を共有しながら定着を図っていく。</p> <p>・グラフに必要な情報を収集したり、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、読み取ったことを根拠を明らかにして説明したりする活動を意図的に取り入れて、定着を図る。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.0	58.1	57.2
	生命・地球	70.1	71.1	70.0
観点	知識・技能	73.8	75.5	74.4
	思考・判断・表現	46.4	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	28.8	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○水のあたためり方の学習をもとに水槽のヒーターの設置場所を選ぶ問題において、県の平均を上回った。</p> <p>●実験の結果の理由を説明する問題に対しては県平均を下回った。</p> <p>●水の沸騰など気体や液体の変化について折れ線グラフをもとに時間や温度との関連付けて説明する問題において課題がみられた。</p>	<p>○実験の予想や実験の過程の様子について説明をする場面を設けたり、結果や考察などにおいて自他の意見の相違点を確認し合うなどの機会を増やしていく。</p> <p>●液体が気体に変化する様子に加え、折れ線グラフの変化の様子も加えて説明するなど、条件が増えた場合の実験の様子を説明する力を付けさせるため、既習の学習内容や生活経験をもとに考えたり、解決したりする機会を多く取り入れるよう毎時間の授業を工夫していく。</p>
生命・地球	<p>○普段の生活体験や観察・実験などで得た知識を問う問題において県の平均を上回った。</p> <p>○百葉箱の温度変化の記録から天気の変化を予想する問題において県の平均を20ポイント上回った。</p> <p>●動物の1年間の様子などにおいて、教科書で学習していない動物の様子を問う問題において県の平均を下回った。</p> <p>●時間の経過とともにどのように月の位置が変化するかを問う問題において課題がみられた。</p>	<p>○身近な動物の活動の様子と季節の変化に着目して、調べたり、既習の内容や生活経験を生かして予想や仮説を立てて観察していく機会を作ったりするなど指導の工夫・改善を行っていく。</p> <p>●月や星の位置や時間の経過とともに変化するかを復習の時間に再度確認するなど定着を図っていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの意欲について「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強をしていて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」設問については県の肯定的回答の平均を10ポイント程度上回っている。このことから主体的に学習に向かう力は育まれてきているといえる。

○「学校での様子」については、「授業中の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」など思考力・判断力・表現力を育むためのめあてやねらい、そして振り返りがしっかりできており、県の平均を大きく上回っている。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていと思う」については全員が肯定的回答をしていて、さらに「学校での役わりや係にせきにんをもって取り組んでいる」の肯定的回答も9割を超えている。児童一人一人が学級の一員として学校生活を送っていることがわかる。

○家での生活については、「毎日、同じくらいの時こくにねている」、「早ね、早起きを心がけている」においては県の平均を大きく上回り、規則正しい生活を送っていることがわかる。

○自分自身のことについては、「しょう来のゆめや目標をもっている」、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」、「家の人としょう来的ことについて話すことがある」、「家でのきまりや約束を守っている」において県の平均を大きく上回っており、家庭でのコミュニケーションがしっかりとれていることがわかる。

○教科や学習のことについては、算数・理科についてとても興味をもって学習に取り組んだり内容をよく理解したりすることができている。

●家庭での学習について、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「家で、学校の授業の復習をしている」については、県の平均を大きく下回った。家庭学習の充実を進めていくことが必要ではないかと考えている。

●学校での様子の「自分は、クラスの人の役に立っていると思う」については県の平均を10ポイント下回っており、自己有用感が低い結果となってしまっている。そのため、学校生活のあらゆる場面においてできたら褒めるなど自信を付けさせていきたい。

●自分自身のことにおいては「自分は勉強がよくできる方だと思う」において県の肯定的回答を大きく下回っている。また家庭でのことについての「自分は家族の大切な一員だと思う」についても県の肯定的回答と比べてみて大きく下回っている。

宇都宮市立城山東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施 ・家庭学習での、漢字・計算くり返し練習。 ・朝の学習での、ぐんぐん応援隊の活用。 ・AIDリルの活用 	<p>○国語の漢字の読みでは、4、5年生ともに正答率が県の平均とほぼ同じであるが、中には正答率10ポイントを上回ったものもあった。家庭学習や朝の学習等、繰り返し練習を行った成果といえる。</p> <p>●国語の漢字の書きに関しては、正答率が県の平均を大幅に下回っているものもあり、繰り返し練習を行う必要がある。</p> <p>●算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られた。重点を絞り、さらに効果的な復習を行っていく必要がある。</p>
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合い活動の日常化(※「考えるときのヒント」の掲示物の活用) ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫 ・自分の考えを書いてから話し合う等、学習過程の工夫 ・ペアや少人数、グループ等の学び合い形態の工夫(※コロナ対策をする。) ・話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用 ・本を介しての学び合い学習の実践 ・条件に沿った文章表現や振り返りの実施 	<p>○質問紙における「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問では、4年生は9割、5年生は7割強が肯定的回答をしている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」では、5年生は県の平均とほぼ同等だった。</p> <p>●国語の「話すこと・聞くこと」の領域では、4・5年生ともに、相違点に着目し理由を挙げながら話したり、伝えたいことの中心を捉えて聞いたりすることには課題がある。</p>
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 ・家読の推奨(※長期休業中実施) ・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施 ・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施 ・朝の学習(月・火は読書) 	<p>○1か月に読む本の冊数は、4・5年生ともに県の割合を上回っている。日頃から本に親しんでいることが分かる。</p>

<p>・実感を伴った作業的・体験的活動の充実</p>	<p>・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的活動の充実</p> <p>・日常生活における身近な物を測ったり、身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定</p>	<p>●算数では、4年生の「身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す」については、正答率が5割と県の正答率を下回っている。また、5年生の「面積の単位の関係」についても、正答率が2割に達していない。今後も継続して作業的・体験的な学習を充実させ、長さや面積、かさ、重さなど、量の大きさについての感覚を身に付けさせたい。</p>
----------------------------	---	--

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語の漢字については、次々と進出漢字を学習するため、以前の物を忘れてしまったり、あやふやになってしまっていた。また、算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られた。学習したそのときには理解できていても、新しい学習に移ったときに忘れてしまったり、新たに出てきた他の計算の仕方と混同してしまったりすることが課題である。</p> <p>また、国語・算数ともに、問題を解く前に諦めてしまい、無回答のままというのが目立っていた。</p>	<p>復習により、基礎基本の定着を図る学習の充実(国語の漢字、算数の計算に重点を置く。)</p>	<p>・単元の導入時に、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。</p> <p>・その学習につながる既習学習の復習をする時間を設ける。</p> <p>・単元のまとめや朝の学習、家庭学習等で、複数の単元の内容をまとめて復習する時間を設けたり、学習の共通する点と異なる点を整理したりして身に付けられるようにする。</p>